

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第35回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2014年11月10日 (月) 13:30~15:50

2. 場所 原子力安全推進協会 第3・第4会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)

(出席委員) 柳原主査, 武部副主査, 近江幹事, 脇, 坂下, 小畑, 柏木, 佐々木, 新津, 田中, 都筑 (11名)

(欠席委員) 岡本, 大浦 (2名)

(代理委員) 山本 (伊藤代理), 見上 (横田代理), 熊谷 (金子代理), (3名)

(常時参加者) 江河, 満田, 北島, 松本, 小野 (5名)

(欠席常時参加者) 水井, 中山, 木原, 小足, 木原, 天澤, 大塚 (7名)

4. 配付資料

F9Ph2SC35-1 第34回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案

F9Ph2SC35-2 人事について

F9Ph2SC35-3 第59回原子燃料サイクル専門部会(2014.6.3)中間報告時のコメント対応状況

F9Ph2SC35-4-1 第60回原子燃料サイクル専門部会(2014.9.12)本報告時のコメント等

F9Ph2SC35-4-2 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)のサイクル専門部会書面投票結果

F9Ph2SC35-4-3 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)のサイクル専門部会書面投票コメント一覧表

F9Ph2SC35-4-4 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)のサイクル専門部会書面投票コメントへの対応の変更点比較表

F9Ph2SC35-4-3, -4 参考 技術基準と適合するための技術要素及び技術的要件

F9Ph2SC35-5 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法: 20XX (案)

F9Ph2SC35-6 「LLW廃棄体等製作・管理分科会」の予定案

5. 議事

(1) 出席委員の確認

都筑委員から, 開始時に山本委員 (伊藤委員代理), 見上委員 (横田委員代理), 熊谷委員 (金子委員代理) の出席を含め 14 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (11 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録 (案) の確認 (F9Ph2SC35-1)

都筑委員から, 第34回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録 (案) が紹介され, 承認された。

(3) 人事について (F9Ph2SC35-2)

日本原燃・金子委員，東京電力・七田委員の退任が報告された。また，日本原燃・熊谷氏，東京電力・新津氏が新委員として承認された。

さらに，常時参加者の関電パワーテック・前田氏が登録解除，原子力規制庁・大塚氏，関電パワーテック・江河氏，関東技研・小野氏の常時参加者登録が承認された。

(4) 第 59 回原子燃料サイクル専門部会(2014. 6. 3) 中間報告時のコメント対応状況(F9Ph2SC35-3)

都筑委員より，F9Ph2SC35-3 を用い，原子燃料サイクル専門部会(2014. 6. 3) 中間報告時に出されたコメントに関し，次の第 60 回専門部会本報告の書面投票移行をスムーズにするため，専門部会主査等の主要な委員のコメントを個別に対応したことを報告した。

(5) 第 60 回原子燃料サイクル専門部会(2014. 9. 12) 本報告後の書面投票結果報告(資料 F9Ph2SC35-4-1)

都筑委員より資料 F9Ph2SC35-4-1 を用い，第 60 回原子燃料サイクル専門部会(2014. 9. 12) 本報告時のコメント等を報告した。

また，資料 F9Ph2SC35-4-2 で本報告後の書面投票結果について報告した。結果は賛成のみで可決である。本報告時のコメントは次に報告する書面投票コメントにも含まれていることを報告し，了解頂いた。

(6) 第 60 回原子燃料サイクル専門部会(2014. 9. 12) 本報告後の書面投票コメント対応について

柏木委員より資料 F9Ph2SC35-4-3, 4-4, 4-5 及び 35-5 を用いて書面投票時のコメント対応について説明した。それに関して以下のコメント等があった。

- ・ L1-C タイプ廃棄体の略語 C は封入を意味する”Closing/Containment”とあるが，海外で通じるのか。原子力学会の標準であることから 100 ページの日本薬局方の用語を採用し，Containment は削除した方が良いのでは。
⇒ 封入の意味は，閉じ込め，格納することの両方の意味を持ち，IAEA の用語集からとっている。
しかし，標準内での整合性を図り Containment は削除する。
- ・ “蓋締め”とあるが，閉めではないか。
⇒ 溶接だけでなく，ボルト締めがあることから”閉め”よりは，”締め”を用いている。
- ・ コメント 22 の L1-Cs タイプの注記は図 C.1 の注記だけでなく，前のページの注 2)にも追記した方が良い。
⇒ 拝承し，追記する。
- ・ 資料 F9Ph2SC35-4-3,-4 参考に「円滑なエンドースのために，」と記載されているが，エンドースの語句は使用せず，「円滑な国の技術評価のために，」とした方が良い。
⇒ 拝承。修正する。
- ・ コメント 28 で±3.5%以下は±3.5%以内が適当と思う。その他の「以下」表示も同様である。
⇒ 土木学会の示方書を確認し，修正する。

以上，原子燃料サイクル専門部会書面投票時のコメント対応は，上記コメントを反映することで

了承された。また、次の専門部会が 11 月 18 日であり、11 月 12 日までに資料を学会事務局に送付する必要性から、各委員が再度確認し、コメントがある場合は 11 月 11 日までに連絡することとなった。

さらに、原子燃料サイクル専門部会で標準委員会の本報告にかけることへの了解が得られた場合、標準委員会の本報告は、専門部会及び本日の分科会コメント反映することで了解された。

(7) 分科会の今後の進め方について

近江幹事より、F9Ph2SC35-6 を用い、分科会の今後の進め方についての説明がなされ、この検討工程案で審議を進めることが承認された。

また、次回（第 36 回）分科会の開催時期は、2 月 9 日とし、標準委員会本報告後の書面投票(1 か月)のコメント対応について審議する。場所は原子力安全推進協会の会議室とする。

以 上